

おだがいさま

odagaisama

第67号
平成28年
12月1日発行

NPO法人公益のふるさと創り鶴岡

だがしや楽校で

“介護のお仕事体験屋台”を出店

「子どもケア・だがしや楽校」は
高校生ボランティアが担当



アイマスクをつけて…
「点字ブロックって
こんなふうを感じるんだ?」



クイズに挑戦!!
「わたし全部答えられたよ。
うれしい!!!」



10月8日(土)、鶴岡銀座通り商店街が主催したざんざ秋まつりで、コミュニティプラザ「セントル」を会場にNPO法人公益のふるさと創り鶴岡のだがしや楽校が出店されました。

だがしや楽校は、幅広い世代間交流やこれからの地域に大切な「新しい社会の力」を育むことを目的にお祭りの屋台形式で行なわれます。

一畳ほどのスペースを使って出店される屋台には、昔懐かしい遊び道具や雑貨などが並び屋台、出店者の趣味が活かされた個性豊かな屋台などの他、「子どもケア・だがしや楽校(介護のお仕事体験屋台)*」と名付けた参加・体験型のイベント屋台があり、訪れた人の大きな話題を呼びました。

このイベント屋台は、小学生を対象に、介護の仕事を楽しく体験しながら福祉への興味や関心を引出していくことを目的に今年度から催されているもので、9月に行なわれた山王ナイトバザールに次いで、今年2回目となります。

参加した小学生は、福祉についてのクイズに答えたり、車イスの操作やアイマスクを装着した歩行などを体験した後に、「クイズが難しかったけど正解できてうれしかった」「車イスのブレーキがたくさんあって、びっくりした」「最初は目が見えなくて怖かったけど、そばで案内してくれる人がいて安心した」など、普段とは違った体験に、笑顔で感想を話してくれました。

※子どもケア・だがしや楽校は平成28年度山形県介護のお仕事プロモーション事業として開催されています

お金がなく「電気・水道が止まってしまった」「食べ物がない」といった相談もあります。暮らしの再建に必要な制度（雇用保険、年金、生活保護）へつないだり、収入までの早急支援として、必要な世帯には、市社協が行う生活資金の貸付やフードバンク※を通じた食品提供を行っています。

また、「負債が多くて生活がまわらない」「離婚した後の生活が心配」など法的な解決が必要なとき、弁護士さんと連携し支援にあたります。

ここでは「暮らし」をテーマに、鶴岡市高齢者障がい者虐待防止委員会の委員長でもある弁護士の日詰直史さんにお話を伺いましたのでご紹介します。

くら
暮らし



◆日詰法律事務所 弁護士 日詰直史さん

地縁、血縁関係が希薄になりつつある昨今、一人で悩んでいる方から離婚問題や債務整理といったご相談を受けます。

私自身、今年度より鶴岡市高齢者障がい者虐待防止委員会の委員長でもあり、山形県弁護士会も、より社会的に弱い立場の方への支援ができればと考えています。そのため、くらしステーション生活相談窓口とより連携しながら支援にあたっているという状況です。

状況によっては法テラス※を利用することも考えられます。敷居が高いように感じられるかもしれませんが、まずは弁護士にご相談ください。

※フードバンク：食品を取り扱う企業から安全上は問題がなくても廃棄される食品の寄付を受け、無償で必要な人や団体に提供することをいいます。

※法テラス：経済的に余裕がない方には、お悩みに応じた相談窓口や、法制度に関する情報を無料でご案内しています。

家を失っては生活出来ません。住まいを求めようにも何らかの事情があり、なかなか住まいを求めるのが難しい状況にある方もいらっしゃると思います。

「退職し、家賃が払えなくなりそうだ」といった場合は「住居確保給付金」という制度があります。

また、鶴岡市では民間賃貸入居に際し、支援が必要な方へ宅建協会を通じ物件情報を紹介する居住支援協議会があります。

ここでは「住まい」をテーマに、物件の紹介や住まいの相談にご協力いただいている宅建協会会員榊空間工場の渡邊豊さんにお話を伺いましたのでご紹介します。

ス
住まい



◆有限会社 空間工場 渡邊 豊さん

近年、どこの地域も空き家が増えている状況は皆さんもご存じではないかと思えます。しかし一方で借りたいのに借りられない、といった声も多く耳にします。この鶴岡で暮らしたいといった方のお手伝いは、市民が増えることであり、市民にとっても嬉しいことだと思います。

【アパート入居の際に連帯保証人がいなかった場合などでもご協力いただきました】

くらしステーションでは、昨年1年間で222件の相談を受付けており、年齢も16歳から92歳と幅広いものとなっています。困りごと多岐に渡れば、それだけ様々な分野と繋がりを持って解決に向かいます。「困っている人」も「困っていない人」も「困っている人を応援している人」も同じ地域住民です。どんな人でも「ここで暮らしてよかった」といえるようなお手伝いを皆さんと一緒に考え、一緒に支援できればと考えています。

困ったとき、そして何かしら協力出来ます、などまずは

29-1729 くらしステーション までお電話ください。お待ちしております。

ステー
ション

一人で抱え込まずに まずは



鶴岡地域生活自立支援センター (くらしス)へご相談ください

平成27年4月より、これまで十分でなかった生活に困窮している方々（生活保護受給者以外）への支援「生活困窮者自立支援制度」が始まりました。相談窓口は鶴岡市役所本所内（1階）にあり、運営は鶴岡市から市社協が受託し、「仕事をしたいけれど働けるか心配」「子どもが仕事につけず困っている」「退職し家を失いそうだ」などの様々な相談に応じています。

窓口の愛称は「くらしステーション」。「くら」は暮らしの「くら」、「し」は仕事や社会、「ス」は住まいといった頭文字を表し、たとえ上手くいかなくなってもまた戻って来てください、との意味から「ステーション」としました。

しかしながら、くらしステーションスタッフだけで解決することは出来ません。様々な人と繋がり、関係機関（ハローワークや行政等）と協力しながら、「困りごと」について一緒に考えていくことで具体的な解決に向かいます。

今回は主な3つの支援についてご協力いただいた方々をご紹介します。

「仕事に就きたいと思ってもなかなか仕事に就けない」「ひとりでハローワークに行っても何となく心配」、そんな時はくらしステーションスタッフが相談者と一緒にハローワークへ出掛けます。ハローワークでは、一人ひとりに丁寧に相談に応じるほか、模擬面談や職種別のセミナーも開催しています。

一方、相談者の中には企業での就労体験を通じて雇用につながった方もいます。まずもって、雇用先のご理解があったからこそできたことではないでしょうか。

ここでは「仕事」と「社会」をテーマに、就労体験を通じて雇用に繋がった多くの雇用先の中から、森茂八商店の森清史さんと一久旅館の池田真知子さんにお話を伺いましたのでご紹介します。

◆森茂八商店 代表 森 清史さん

特に福祉の視点で雇用を考えたことはありません。

しかしながら、人口減少は避けられない中、我々企業はどんな人でも雇用出来る体質にならないといけないのでは、という思いでいます。

そんな思いがひるがえせば福祉に繋がっている、ということなのではないでしょうか。



◆湯の浜温泉 一久 若女将 池田真知子さん

くらしステーションスタッフさんから「まずは就労体験をさせて下さい」といわれたのがきっかけです。相談者の方がまじめに働いてくれる姿を見て、少しずつ私達の旅館で働いてもらうこととなりました。少しでも私たちの仕事を通して社会貢献が出来たら、という思いであります。

表彰

去る十月十三日(木)に鶴岡市中央公民館で「福祉のつどい」が開催され、長年、地域福祉の向上に貢献された方や団体へ難波会長から表彰状・感謝状が贈呈されました。

受賞者の紹介

◆表彰状

西川 松一氏 (鶴岡地域)

第一学区社協の副会長や事務局長を歴任し、長きにわたり様々な学区社協の事業の基盤整備や事業推進に貢献された。

大場 隆雄氏 (鶴岡地域)

第三学区民生児童委員協議会副委員長や第三学区社協ふれあい委員会の副委員長を歴任し、地域福祉の推進に貢献された。

岩浪 武司氏 (鶴岡地域)

平成八年の第四学区社協設立準備委員として設立に貢献。設立後は副会長、事務局長を歴任され、長きにわたり学区社協の事業推進に貢献された。

斎藤 喜美子氏 (鶴岡地域)

平成八年の第四学区社協発足以来現在まで、会食事業部の事務局として、主に一人暮らし高齢者交流会食会などの学区社協事業に貢献された。

白幡 康則氏 (鶴岡地域)

三十年ほど前から小学校教員として、まだ広く知られていなかった不登校やひきこもりの児童への支援を続けられ、退職後も継続して地域のひきこもり支援に尽力されている。

コーラス・ドレミ (鶴岡地域)

平成十二年から第五学区の有志五名で施設を訪問し交流活動が続けており、福祉施設を利用する皆さ

んに喜ばれる活動を続けている。
鶴岡点字サークル (鶴岡地域)

昭和六十年代から視覚障がい者のための点訳ボランティアを続けながら、視覚障がい者の情報支援と共に生きる社会づくりに貢献された。

阿部 英子氏 (藤島地域)

十六年間にわたり、日常生活自立支援事業(福祉サービス利用援助事業)の生活支援員として、福祉向上のために尽力された。

帯刀 春男氏 (朝日地域)

旧朝日村社協の理事、監事として、平成十七年の市町村合併後は市社協の理事、副会長として、社協の発展と地域福祉の推進に貢献された。

◆感謝状

齋藤 博氏 (鶴岡地域)

今年度、福祉車両を市社協に寄贈され、施設利用者の送迎や外出活動に資する車両として活用させていただいている。

鈴木 洋子氏 (鶴岡地域)

今年度、運動機器を市社協に寄贈され、施設利用者の機能訓練向上に資する機器として活用させていただいている。

ほほえみ桜の会 (朝日地域)

公共交通機関の利用が難しい高齢者や障がい者の外出支援のため「福祉有償移送サービス」に協力し、地域の福祉増進や地域づくりに貢献された。

ふるさと温海会 (温海地域)

十八年間、温海地域の三施設(愛寿園、もみじが丘、温寿荘)を対象に、毎年一施設ずつ順に寄附を継続し、地域の施設運営に貢献された。



ご寄付ありがとうございました

みなさまのご厚志に心より御礼申し上げます。
(平成28年9月6日~平成28年11月5日までのご寄付を掲載しています)

★一般社会福祉事業へ

◎鶴岡福祉センターへ

- ・八沢会様 50,000円
- ・成澤 恒雄様
フードバンクへ/じゃがいも55kg
- ・庄内なつメロ会様 20,000円

◎藤島福祉センターへ

- ・曹洞宗山形県第三宗務所 第九教区会様 40,000円

◎温海福祉センターへ

- ・本間 仁教様 100,000円

★東日本大震災の避難者支援事業へ

- ・ピアノリサイタル出演者 村田久子様、
ハンドベルサークル「エーデルワイス」代表 芳賀里栄子様 55,677円

★老人デイサービスセンターふれあいへ

- ・山形パナソニック株式会社様
介助型車イス1台

★高齢者福祉センターおおやまへ

- ・有限会社 ヤママル成澤水産様 ホタテ3箱
- ・有限会社 九上工藤商店様 豚バラ肉1kg

★はちもりへ

- ・匿名 玄米60kg

★地域包括支援センターへ

- ・匿名 20,000円

★櫛引すこやかセンターへ

- ・櫛引地域婦人会様 タオル190枚

おだがいさま

第67号
平成28年12月1日発行
発行部数 48,800部



編集・発行

社会福祉法人 鶴岡市社会福祉協議会
鶴岡市泉町5番30号 (にこ♥ふる 2階)

TEL 0235-24-0053 FAX 0235-23-9110

ホームページ <http://www.shk01.jp/>

鶴岡福祉センター TEL 24-0053

藤島福祉センター TEL 64-3100

羽黒福祉センター TEL 62-4534

櫛引福祉センター TEL 57-5300

朝日福祉センター TEL 53-2795

温海福祉センター TEL 43-2114

この広報紙は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。